

小学校における外国語活動・外国語科の授業づくり

尾上 利美 (和歌山大学教育学部)・森川 英美 (和歌山市立藤戸台小学校)
鈴木 朋子 (和歌山市立藤戸台小学校)・前田 有美 (和歌山市立藤戸台小学校)

1. 研究課題について

本研究課題は、新しい学習指導要領のもとで行われる外国語科および外国語活動の授業づくりについて実践的に検討し、授業実践事例の蓄積を目的とするものである。本年度の藤戸台小学校外国語部のテーマである「fun ⇒ interesting な授業づくり」を中心に据えつつ、共同研究者の先生方それぞれのマイテーマも実現できるように、学習指導案検討、授業参観、協議会等を行った。

2. 取り組みについて

藤戸台小学校と和歌山大学は非常に近い場所にある。その地の利を生かし、単元計画と学習指導案作成のための検討会を何度も持つことができた。学習指導案の検討では、「子供たちが外国語を使ってコミュニケーションをする楽しさを経験し、相互に協力をして意味のやり取りができる必然性のある言語活動を設定したい」という授業者となる先生方の考えに支えられ、様々な言語活動が検討された。共同研究者間で、自身のこれまでの授業経験や参観した授業で実施されていたことを共有し、児童の現状を踏まえてさらなる工夫をするためにはどうしたらよいかを考え、単元計画や授業の中でスモールステップが上手く配列されるように、何度も学習指導案に磨きをかけた。授業実施後の協議会では、授業を参観して下さった他の先生方からの意見を頂戴することができ、今後の授業づくりへの新たな示唆も得ることができた。

以下は主な取り組みの日時とその内容である。

- 5月12日(木) 16:00～ (@藤戸台小) 共同研究打合せ
- 6月9日(木) 16:30～ (@藤戸台小) 学習指導案の検討
- 6月22日(水) 13:20～14:05 (@藤戸台小) 森川先生研究授業(6年2組)・協議会
- 8月24日(水) 14:00～ (@藤戸台小) 学習指導案の検討
- 10月25日(火) 16:00～ (@藤戸台小) 学習指導案の検討
- 11月14日(月) 11:30～12:15 (@藤戸台小) 鈴木先生研究授業(3年2組)・協議会
- 12月9日(金) 16:30～17:30 (@藤戸台小) 協力者会(学習指導案の検討)
- 1月24日(火) 16:30～17:30 (@藤戸台小) 協力者会(学習指導案の検討) <予定>
- 2月4日(土) 9:30～10:15 (@藤戸台小) 第9回藤戸台小学校教育研究発表会
前田先生研究授業(5年2組)・協議会 <予定>

3. 授業実践から

①『MoriMori Travel であなたにぴったりの旅を！』の実践について（6年2組）

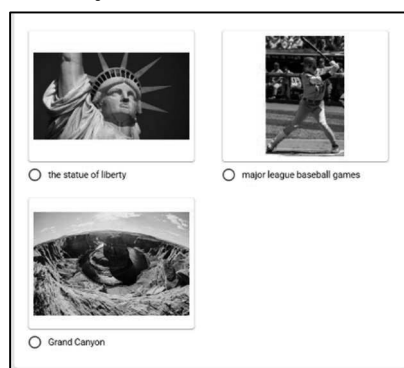


「他者に伝わるように意識しながらコミュニケーションを図ろうとする子供の育成」をマイテーマに設定し、外国語科の授業を進めてきた。研究授業前に実施したアンケートによると、97%の子供が外国語の授業を楽しんでいると感じていた。しかし「習った英語を使って、発表したりやり取りしたりできますか？」という質問に対しては、「あまりできない」「できない」と約4分の1の子供が回答した。このことから、子供達が英語でのアウトプットに苦手意識をもっていることがわかった。英語を使って他者に伝わる楽しさや達成感を味わわせることで、もっと自信をもって英語でのコミュニケーションを楽しめるようにしたい。

また、今年度外国語研究部では、「fun⇒interesting な授業づくり」をテーマとしている。「活動が楽しい！」にとどまらず、「英語でのコミュニケーションが楽しい！」という知的好奇心をもってもらうためには、ターゲットセンテンスに十分楽しく慣れ親しませた後、多くのパフォーマンス活動に取り組みせる必要がある。パフォーマンス活動での成功体験の積み重ねが、英語でアウトプットすることへの自信につながると考える。

Lesson3 Where do you want to go? では、世界の国や世界遺産、食べ物等を題材とした活動を通して、世界の国々の特色やよさに気づくことがねらいである。アンケートでもクラスの半分以上が「世界の国々について知りたい」と回答しており、単元内容への関心も高い。この単元を通して世界の国々に対して知的に探求したいと思える『interesting な授業』づくりを目指そうと考えた。本時では、子供達がツアープランナーとなって行きたい国について尋ねたり、客として答えたりする活動を行った。「話すこと(やり取り)」の活動を主眼に、友達に行きたい観光地や食べたい物、買いたいお土産を尋ね、その子にぴったりのツアープランを一緒に作っていくロールプレイングの活動に取り組みさせた。

右図のような Google フォームを作成し、ツアープランナー役の子はいくつかの観光地・食べ物・お土産を紹介し、お客役の子に選んでもらう。その際、Where do you want to go? I want to go to....というターゲットセンテンスに加え、What do you want to see/ eat/ buy?といった表現にも取り組みさせた。端末の利用や英語表現の追加をすることで、ロールプレイングにリアリティをもたせることができ、より子供たちの意欲を引き出すことができた。しかし一方で、課題も多く見られた。まず一つ目の課題は授業のめあてが具体的ではなかった点である。本学級ではコミュニケーション活動の際、必ず Big voice、Eye contact、Smile、Try の BEST ポイントを意識するように指導を行っている。Try の内容は活動によって異なり、今回はツアープランナーとしてジェスチャーを意識するようにしたり、お客として説明を反応しながら聞いたりするように指示をした。しかし、Try の内容を上手に実践していた人はいたか尋ねたが、子供達からよい実例はあがってこなかった。これは、よい紹介や反応がどういったものなのか、子供達が具体的にイメージできていなかったことに起因している。MoriMori Travel の活動の手順を教師は全て口頭で説明したが、子供からボランティアを募り、実際にデモンストレーションを行



った方が、より活動のイメージを持たせられたように感じる。その際、教師がジェスチャーをつけずに紹介したり、反応を何もせずに関いたりする悪い例を示すことで、「もっとうした方がいい」「ジェスチャーを入れた方がわかりやすく伝えられる」と子供達に気づかせることもできたのではないだろうか。二つ目の課題は、本時の活動だけではお客側に観光地や食べ物、お土産の魅力を十分に伝えられなかったことである。例えば、お土産を選ぶシーンで、画像を見ながら“I want to buy perfume.”と答えた男の子がいた。しかし、やり取りが終わった後に、「perfume は香水だよ？」とツアープランナーの子に伝えられ、彼は「違うのを選べばよかった」と後悔するという場面があった。日本語の表現よりも英語で伝えられる内容はどうしても少なくなってしまうと尾上先生よりご指摘いただいた。総合的な学習の時間等、他教科とタイアップすることでもっと外国について目を向けさせることができ、それが「知的におもしろい」＝「interesting な授業」づくりにつながるとアドバイスを受けた。三つ目の課題は、使用表現の精選である。本時では追加の英語表現が多く、何人かの子供達がとまどう様子が見られた。What do you want to see/ eat/ buy? の英語表現を既に追加していた上、Ticket please. Sign please.といった行動の伴う表現もあったため、混乱が起こったと考える。尾上先生から、既習の表現である Here you are. Thank you. を使用の方がよかったのではないかとご助言をいただいた。子供達の実態に合わせて、授業で扱う英語表現を取捨選択する必要があったと感じた。

また、Wow!や Nice.等のリアクションを英語で自然に行うには積み重ねが必要であるため、あせらず今後の単元でも取り組んでいってほしいと言われた。そのご助言をもとに2学期・3学期とジェスチャーやリアクションにひき続き取り組んでいく中で、子供達に変化が見られるようになった。友達の発言に対して、“Me, too.” “I see.” といった反応が自然とできるようになったのは、1年間の成果の一つと言えるだろう。尾上先生のご助言や研究授業での反省を活かし、今後も授業力向上に取り組んでいきたい。

(森川 英美先生)

②『クラスメイトにスペシャルインタビューをしよう!』の実践について (3年2組)

「伝える・伝わる・繋がる 子供同士が関わりあう授業づくり・学び合う集団作り」をマイテーマに設定し、外国語活動の授業を進めてきた。3年生は、教育課程の中で初めて英語に触れる学年であり、授業で初めて外国語を聞いたり話したりする子供もいる。そのため、子供の興味・関心に沿った内容を取り扱い、英語は楽しいと感じさせること・相手に伝えることに慣れさせることを大切にしてきた。そして、気持ちを通わせあう経験を繰り返す中で、自己開示のハードルを下げ、伝え合う力の素地や主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につなげていきたい。また、実際に使用する場面を想定してやり取りすると、途端に委縮してしまう子供も多い。そのため、授業の中で単なる言葉のやり取りに終始するのではなく、子供達にとって身近でリアルな場面設定をし、意味のあるやり取りを通して、互いの心を通わすことの大切さを意識させるとともに、その楽しさを実感させていきたいと考えている。

Lesson6 の What do you want?では、身の回りのものの語彙に慣れ親しませるとともに、自分の好きなものを尋ねたり、答えたりする活動を通して、楽しくコミュニケーションを図れるようにすることがねらいである。本単元を通して、自分や友達への新たな気付きをする

中で、子供達の情報交換をより活発にしたい、より深い関係づくりへと促したいと考えた。本時では、一人の友達に対して自分がすごく聞きたいことを3つ質問する、スペシャルインタビュー大会を行った。ここでは、教科書にある **What color/ fruit/ sport/ food do you like?** だけではなく、**game/ character/ snack** といったカテゴリーも質問できるよう、子供達は事前に準備をして行った。

この授業で見られた成果は、次の三点である。一つ目は、自信をもって英語でのインタビュー活動に取り組みていたことである。前時までにくり返し、スモールステップで表現練習やインタビュー活動を行っていたため、ほとんどの子供が戸惑うことなくやり取りを行うことができた。二つ目は自然な **Reaction** である。先生達のインタビュー動画のよい例、悪い例を子供達に事前に見せたことで、**Reaction** のある・なしで受ける印象が全く違うことを気付くようにした。そのため、活動中にはあちこちで **Wow!** や **Me, too.** という反応があり、温かい雰囲気の中で言語活動が進んでいたと考える。そして三つ目が、友達のことをもっと知りたいと感じ、コミュニケーションを楽しもうとする子供の姿である。「**What snack do you like?**」「**I like potato chips.**」というやり取りの後、「**Wow. What 味 do you like?**」と質問を付け足す児童がいた。本単元でねらいとしていた、友達の好きなものについてもっと詳しく聞きたいという思いが感じられる場面であった。

しかし、課題も二点見つかった。一点目は、実践場面の少なさである。本時の時間配分は、【**反復練習 8割→インタビュー 2割**】だった。もう少しインタビューの時間に割けることが出来れば、より活動の質が向上したのではないかと尾上先生よりご助言いただいた。その手立てとして、視覚化（インタビューをする場面をイラストで掲示する、会話文の色を変えて見やすくする）をしてインタビューの完成形をイメージしやすくすること、中間評価で望ましい姿を発表させることをあらかじめ伝えておき、「良い行動を見つけよう」、「完成形に近づけよう」と意識づけることが、効果的ではないかと考える。二点目に、単数・複数の取り扱いについて尾上先生よりご指摘いただいた。例えば、相手に好きなフルーツを尋ねる際に“**What fruit do you like?**”と指導していたが、カテゴリーの英語を学ぶ際に使用しているフラッシュカードでは“**fruits**”と表記していた点や、フルーツのフラッシュカードは“**apple**”等の単数で表記しているが、チャンツ練習では“**I like apples.**”と複数形で練習していた点である。フラッシュカードで単数・複数の両方を練習したり、りんごが好きと表現する際は複数形にしないと一つのりんごだけが好きだという表現になってしまうことを指導したりする必要がある。単数・複数については、外国語活動時から正しい文法に触れさせることが望ましいため、今後授業を行う上で意識していきたい。

(鈴木 朋子先生)